

天狗党

明治を待てなかつた志士たち。



年/月	天狗党の歩み	渋沢栄一、幕末日本の動向
1860	・第9代水戸藩主の徳川斉昭が病死	・桜田門外の変
1864 3	・藤田小四郎ら天狗党、筑波山で挙兵 ・武田耕雲齋を首領とし、京都への進軍を開始	・渋沢栄一、一橋慶喜に仕官 ・禁門の変 ・第一次長州征伐
12	・美濃(岐阜県)から大野藩に進行(5日) ・木ノ芽峠を越え、新保(敦賀市)に到着 ・包囲を受け降伏(11日)	・一橋慶喜、天狗党追討軍総大将となる
1865 2	・永覚寺にて、幕府による取り調べ(1日) ・来迎寺にて、353名が処刑(4~23日)	
1866	・遠島処分浪士が小浜藩預かりとなる	・薩長同盟が成立 ・徳川慶喜が第15代将軍に就任
1867	・佐柿の准藩士屋敷に浪士が移住	・渋沢栄一、幕臣としてパリに派遣される ・大政奉還
1868		・戊辰戦争が勃発、明治に改元

「近代日本経済の父」
とも呼ばれる渋沢栄一が
活躍した幕末から明治の動乱期。
「尊王攘夷」を掲げて決起した
水戸藩の改革派「天狗党」は
なぜ福井の地で散ったのか。
ゆかりの地には
その志と哀しみが満ちていた。

天狗党
ゆかりの
スポット情報
最新情報は
こちら



天狗党とは

幕末の水戸藩において「尊王攘夷」を主張した改革派。1864(元治元年)年、武田耕雲齋、藤田小四郎らを中心に筑波山で挙兵。一橋慶喜を頼り京を目指したが、敦賀で降伏。353名が斬首、約470名が遠島・追放他扱いとなった。

幕末明治の偉人たち(福井藩・水戸藩)

水戸藩

徳川斉昭
水戸藩第9代藩主。藤田東湖、武田耕雲齋などの有能な人材を登用し藩政改革に尽力。尊王攘夷の急先鋒として活躍。

天狗党・武田耕雲齋
1864(元治元年)年、尊王攘夷を唱えて挙兵。朝廷に志を訴えようと京都へ上る途中、敦賀の新保で捕らえられる。悲劇の運命を辿った天狗党だが、福井での宿泊時の地元民との交流など、逸話が数多く残っている。

土佐藩

坂本龍馬
新政府の財政担当に推挙

由利公正
福井藩の財政再建を実現。「五箇条の御誓文」の原案の起草や、日本初の全国通用紙幣「太政官札」を発行。

福井藩

松平春嶽
福井藩第16代藩主。橋本左内など身分にとらわれず人材を抜擢し、改革を推進。幕末の四賢侯に数えられる。

橋本左内
一橋慶喜を次期将軍にすべく、春嶽の側近として活躍。「安政の大獄」で捕らえられ、26歳の若さで命を落とす。

水戸藩

一橋(徳川)慶喜
徳川斉昭の七男。天狗党挙兵時の禁裏御守衛総督(京都御所を警護する役職)。天狗党の追討軍総大将となる。

渋沢栄一
実業家として生涯に約500の企業の育成に係わり、多くの社会公共事業や民間外交にも尽力。天狗党挙兵時は一橋家に仕官しており、慶喜と共に対応にあたる。

※1 福井市立郷土歴史博物館所蔵

福井の幕末関連スポット

- 福井市立郷土歴史博物館**
「養浩館」に隣接し、越前松平家に伝わる文物等が展示されている。「へんしん越前屋」では振袖や鎧兜など昔の衣装を無料で体験できる。
●福井市宝永3-12-1 ☎0776-21-0489
- 名勝 養浩館庭園**
福井藩主松平家の別邸で「御泉水屋敷」と呼ばれた。建物を囲む園池を中心に樹木や石組が効果的に配され、その優雅さは海外からも高い評価を得ている。1982年に国の名勝に指定。
●福井市宝永3-11-36
- 左内公園**
その才を買われ、藩主松平春嶽公の側近として活躍した橋本左内は、26歳のとき「安政の大獄」で斬首。本公園には左内の墓などが設けられている。
●福井市左内町7
- 箕屋旅館跡**
1867年11月、由利公正(当時、三岡八郎)と坂本龍馬が、箕屋旅館で日本の将来について夜更けまで語り合ったとされる。その後火事で焼失した旅館跡に、石碑が建てられている。
●福井市照手1-14

お札のルーツは、福井にあり!

渋沢栄一で注目!

2024年に、渋沢栄一の肖像画がデザインされた新紙幣が発行されることもあり、紙幣の歴史や製造技術に注目が集まっている。紙幣、つまりお札の歴史をさかのぼっていくと、辿り着くのは福井の伝統工芸、越前和紙。

日本初の全国通用紙幣!「太政官札」
江戸末期に福井藩の財政を立て直し、明治新政府で「徴士参与(現在でいう財務大臣)」の職に就いた由利公正は、「太政官札」と呼ばれる紙幣を発行し、政府の財政安定化に尽力した。太政官札は、日本で初めて全国流通した紙幣とされ、近代的な経済体制に移行するきっかけとなった。この太政官札に使われたのが、越前和紙である。太政官札による財政安定化策は、渋沢栄一がのちに推進する産業振興を下支えした。その後の様々な功績により「経済の父」と称される渋沢は、新たな紙幣で「経済の顔」となる。

現代に受け継がれる越前和紙の技術
太政官札同様、現在の紙幣にも「みつまた」という和紙と同じ原料が使われている。また偽造防止のための「すかし」には、越前和紙の紙すき職人が開発した技術が使われている。

岡太神社・大瀧神社
越前和紙の産地、越前市今立五箇には、日本で唯一の紙の神様、「川上御前」を祀る岡太神社と、国の重要文化財に指定されている大瀧神社があり、全国の製紙業者から信仰を集めている。
●越前市大瀧町13-1 ☎0778-43-0330 平日9:00~17:00(岡太講 石川)



6 本妙寺

加賀藩へ降伏した天狗党一行が収容された寺院のひとつ。耕雲齋の次男である武田魁介ら346名が収容された。本寺に収容された浪士も、のちに過酷な扱いを受けることとなった。
◆ 敦賀市元町13-12
☎0770-22-5403
*お問い合わせ等に対応できない場合がありますのでご了承ください。



5 本勝寺

加賀藩に降伏した天狗党一行が収容された寺院のひとつ。耕雲齋や小四郎らをはじめ、387名が預けられた。境内には現在、「武田伊賀守耕雲齋以下水戸烈士幽居之寺」と刻まれた石碑が建てられている。
◆ 敦賀市元町19-21
☎0770-22-3494
*お問い合わせ等に対応できない場合がありますのでご了承ください。



4 武田耕雲齋本陣跡(新保陣屋)

1864(元治元)年12月、木ノ芽峠を越え新保村(敦賀市新保)に到着した天狗党は、幕府軍に包囲され、菓原村(敦賀市菓原)に布陣していた政府軍先鋒の加賀藩と対峙する。武田耕雲齋は当時問屋を営んでいた塚谷家の屋敷に本陣を置き、加賀藩から派遣された使者との交渉の場として利用した。加賀藩との戦闘を望まなかった天狗党は、この屋敷で交渉を重ねた結果、降伏することを決めた。
◆ 敦賀市新保
☎0770-22-8152 (敦賀市教育委員会事務局文化振興課)



3 旧京藤甚五郎家住宅

池田から今庄宿に入った天狗党一行が滞在した民家のひとつ。今庄宿では、天狗党が到着すると村が焼き払われるという噂が流れており、一行がたどり着いた時には無人となっていた。京藤甚五郎家を含む周辺の民家には、自分たちの境遇に苛立った浪士が斬りつけた傷が柱などに残っている。酒屋であった当家の酒を使い、浪士が風呂を沸かしたという逸話も伝わる。
◆ 南越前町今庄68-35
☎0778-47-8005(南越前町教育委員会)



2 善徳寺

1864(元治元)年12月、京都を目指す途上で大野を経て、池田にたどり着いた天狗党の一行が宿営した寺院。およそ30名が滞在したと伝わる。宿泊した翌日、2名の浪士が善徳寺の住職に自らの髪(もとどり)たぶさ:髪を頭上で束ねたもの)を切って渡し、「今日を命日として菩提を弔って欲しい」と頼み、住職は願い通り、寺院の裏山に墓を建て申したという。住職に渡された髪は、今も寺に残る。
◆ 池田町谷口36-20 ☎0778-44-6615



1 宝慶寺(ほうきょうじ)

道元禪師を慕い来日した中国の僧が開いた、大本山永平寺に次ぐ曹洞宗第二道場の寺院。天狗党一行が池田方面に向かう際、寺院の名を冠した「宝慶寺峠(普門坂)」を通過して進軍した。
◆ 大野市宝慶寺1-1
☎0779-65-8833



7 長遠寺(じょうおんじ)

本勝寺や本妙寺とともに、加賀藩へ降伏した天狗党一行が収容された寺院。90名の浪士が身を寄せたといわれている。他の浪士と同様、のちに敦賀舟町の蔵に拘禁される。
◆ 敦賀市元町18-25
☎0770-22-5475
*お問い合わせ等に対応できない場合がありますのでご了承ください。寺院内見学希望の方は事前にご連絡ください。



8 水戸烈士記念館(旧餅蔵)

加賀藩による寺院への収容の後、幕府が天狗党一行823名を監禁した餅蔵のひとつ。敦賀市内に唯一残る近世期の敦賀港で使われた倉庫である。2020年に市指定文化財となった。
※2021年中に解体調査予定
◆ 敦賀市松原町2 ☎0770-22-8152 (敦賀市教育委員会事務局文化振興課)



9 永覚寺

餅蔵での過酷な環境で天狗党一行を拘束したあと、幕府はこの永覚寺に法廷(仮白洲)を設置し、簡易な取り調べを行った。353名に斬首が言い渡され、およそ470名が追放などに処された。
◆ 敦賀市金ヶ崎町2-31
☎0770-22-8128 (敦賀市観光部観光交流課)
*お問い合わせ等に対応できない場合がありますのでご了承ください。



10 来迎寺(らいごうじ)

戦国時代には大谷吉継からの帰依を受けた寺院。この来迎寺の西側に位置する「来迎寺野」と呼ばれる場所で、武田耕雲齋をはじめとする浪士353名が幕府によって処刑された。
◆ 敦賀市松島町2丁目5-32
☎0770-22-0654
*お問い合わせ等に対応できない場合がありますのでご了承ください。



11 武田耕雲齋等墓

敦賀市松島町、松原神社の近くにある墳墓。武田耕雲齋をはじめとした幹部24名をはじめ、幕府が下した斬首刑により敦賀で命を落とした353名の名前が墓石に刻まれている。さらに、行軍中に討ち死にした21名、病死した31名の天狗党一行の名前も残っている。1934(昭和9)年には、国の史跡に指定された。墳墓のすぐそばには、1978(昭和53)年につくられた武田耕雲齋の銅像が立つ。1887(明治17)年、渋沢栄一が第一国立銀行頭取として視察途中に敦賀に投宿し、水戸天狗党の埋葬地にも訪れている。また1914(大正3)年の墓改修時には「渋沢男爵家」として金20円を寄附している。
◆ 敦賀市松島町2丁目9 ☎0770-22-8152 (敦賀市教育委員会事務局文化振興課)



12 松原神社

1875(明治8)年に、武田耕雲齋ら411柱の浪士を祀るために創建された神社。当初社殿は建っていないが、1898(明治31)年に社殿が完成し、1915(大正4)年に現在の場所に移転された。境内には浪士が監禁された餅蔵のひとつが移築され、水戸烈士記念館として天狗党の悲劇を現代に伝える。
◆ 敦賀市松原町2 ☎0770-22-8152 (敦賀市教育委員会事務局文化振興課)



松原神社境内の一角にある梅の木。天狗党にちなんで姉妹都市の水戸市より献木された



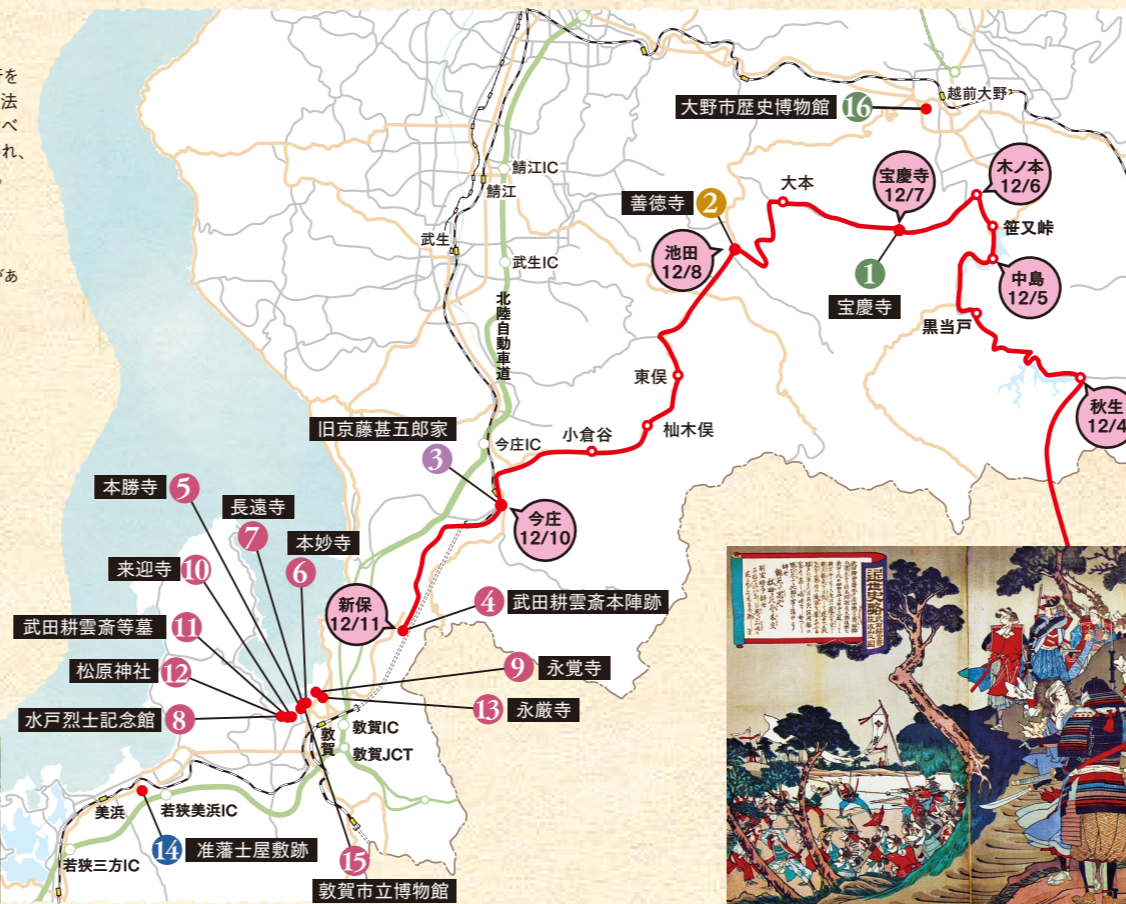
13 永厳寺(ようごんじ)

1413(応永20)年に創建。天狗党には少年たちが同行しており、この少年らの行く末を不憫に思った住職が奉行所に申し入れ、十数名(一説によると11名)を弟子として引き取った。
◆ 敦賀市金ヶ崎町15-21 ☎0770-22-1535
*お問い合わせ等に対応できない場合がありますのでご了承ください。



14 准藩士屋敷跡

斬首を免れた浪士の住まいとなった屋敷跡。遠島処分となった浪士は敦賀での謹慎後、小浜藩に預けられ、藩は彼らに准藩士の身分を与えてこの屋敷に移した。近くの徳實寺には3名の浪士が葬られている。
◆ 美浜町佐栂23-8
☎0770-32-0050(若狭国吉城歴史資料館)



『近世史略 武田耕雲齋筑波山之図』(敦賀郷土博物館(八幡神社)所蔵)

一八六四年、水戸天狗党は藤田小四郎らを中心に筑波山で挙兵した。京にいた一橋慶喜を頼り、朝廷に尊王攘夷を訴えようと約千名が行軍。敦賀にたどり着き、首領の武田耕雲齋、藤田小四郎らはそこで処刑された。敦賀をはじめとする福井県内の各地に残された彼らの足跡を巡り、その志に思いをはせよう。

幕末の悲劇 天狗党 敦賀に散る。

天狗党資料が所蔵されている博物館



15 敦賀市立博物館

旧大和田銀行の建物を活用して設置された博物館。昭和初期の銀行建築を鑑賞でき、国際港敦賀を象徴する建造物として国の重要文化財に指定されている。天狗党に関する資料が常設展示されている。
◆ 敦賀市相生町7-8 ☎0770-25-7033

16 大野市歴史博物館

美濃から越前に進んだ天狗党は当時鯖江藩領だった木本の杉本家で休息。もてなしに感謝した天狗党は出発時に二幅の地図を残した。博物館にこの古地図の複製が保存されており、関東から九州までが精密に描かれている。
◆ 大野市天神町2-4 ☎0779-65-5520



伝藤田小四郎所用陣羽織個人蔵(大野市博物館寄託)
藤田小四郎が所有し、越前滞在中に池田町の寺院に遺したものと伝わる。後の縁故により大野藩家老田村又左衛門家が所有することになった。